

生物資源科学部だより

編集・発行 / 島根大学 生物資源科学部 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 URL: <https://www.life.shimane-u.ac.jp/>
TEL: (0852) 32-6493 FAX: (0852) 32-6499

Vol.34

発行 2021年 8月



学部長より保護者の皆様へのご挨拶

生物資源科学部長 川向 誠

新型コロナウイルスの蔓延は、人々の生活を一変させてしまい、大学の教育研究活動にも大きく影響を及ぼしております。昨年度末の学位授与式や新年度の入学式も限られた人数の参加者の中で、開催いたしました。本来は多くの卒業生や入学者を一緒にお祝いしたいところですが、まだまだ辛抱が必要な状況です。その中で、生物資源科学部におきましては、感染症対策と授業の両立を目指して、日々工夫を重ねながら、教育と研究活動を進めてきております。現在、生物資源科学部では、約60%の授業で対面での授業を取り入れております。特に実習、実験、フィールド学習、卒業研究を通じた教育活動は学生が成長する重要なカリキュラムですので、感染対策を取りながら対面授業を進めております。



国連開発計画が定めたSDGs「持続可能な開発目標」が広く知られるようになってきました。これからは持続可能な発展を目指した社会を構築する必要があります。プラスチックゴミの増大や食品ロスなど、日常的な問題も含め、消費中心の社会から脱却する必要があります。生物資源科学部はまさにこのSDGsを教育研究の柱にしている学部です。SDGsの重要性を理解した学生さんがたくさん社会に巣立っていくことを願っております。

さて、生物資源科学部は「生命科学科」「農林生産学科」「環境共生科学科」の3学科体制の改組をして4年目になり、今年度初めての卒業生を送り出します。今年は、それぞれの学科が設定した教育目標を再点検する時期になっています。今後も、これまでに積み重ねた70年の教育実績を基盤として、広い視野を持った世界に活躍できる学生を育てていきたいと思っております。保護者の皆さまには、これからも暖かいご支援をいただきますようお願い申し上げます。

生物資源科学部に新入生 223名が入学

4月2日(金)、令和3年度島根大学入学式が挙行され、生物資源科学部に、223名、大学院自然科学研究科(生物資源科学系)に59名の新入生が入学しました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、各学部・研究科入学生から選出された代表者1名ずつの計10名が参加し、式典の様子を大学公式Youtubeチャンネルでライブ配信を行う形での実施となりました。

入学式の後には、感染対策を取りながら、学科ごとに分かれて全員参加でのオリエンテーションを実施しました。学部長からのお祝いと激励の言葉に続き、学務担当から、履修登録方法やオンライン授業に関すること、困ったときの相談窓口など、大学生活での基本的事項についての説明があり、新入生はメモを取りながらしっかりと話を聞いていました。



新任教員からの挨拶



ヌータラパティ・ヘマンス助教

生命科学科
令和3年3月着任

私は南インドで育ち、インド北部にある Banaras Hindu University で分析化学の修士号を取得しました。その後、私は台湾に留学して、国立交通大学で応用化学の博士号を取得しました。博士課程において、私はラマン顕微鏡を構築して、前処理や化学修飾を必要としない方法を使用して単一細胞レベルで酵母の代謝経路を研究しました。2014年に島根大学の戦略的研究推進センター赴任後は、生命の基本的なプロセスを理解するための基礎研究に加えて、この素晴らしい技術を応用して新しい病気の診断法の開発を目指しています。生物資源科学部赴任後、私は、特に癌の早期診断において、ラマンハイパースペクトルデータへのAIの適用を積極的に検討しています。私の研究に興味のある方はご連絡ください!!

学科の様子

生命科学科

生命科学科では、コロナ禍における逆境を跳ね返すべく、感染症拡大防止対策を徹底しながら、学生実験や授業の一部を対面式にする前向きな取り組みを実施しています。また、昨年度から引き続き、オンライン授業やオンデマンド実習なども併用して、学生の修学意欲の継続を期待しているところです。さらに、各学年の指導教員も定期的な面談等で履修や生活のアドバイスをを行いながらサポートしています。1年生は、生命科学基礎セミナーIで各自が興味をもつ生命科学のテーマについて、教員1名につき学生3名ほどのグループで直接の指導を受け、大学生になったことの実感を深めています。2年生は、専門的教育コース4つに分属され、各自が興味をもっていた授業・実習の受講を通して生命科学の面白さをさらに追求しています。3年生は、後期からの研究室配属に向けて、配属希望の研究室の情報収集も積極的に行っています。4年生は、各教員の指導のもとによいよ卒論研究が本格始動し、また、就職や大学院進学などの新たな進路を切り開くために挑戦する日々を過ごしています。



左：生命科学基礎セミナーI。授業全体の説明を受ける様子。
右：植物の顕微鏡観察で教員の指導を受ける様子。

農林生産学科

農林生産学科では、本年度も多くの科目でテレビ会議システムや動画資料を用いたオンライン授業が行われています。戸惑いやトラブルが多かった昨年度に比べ、本年度は学生・教員共に新たな授業方法への適応が進んだようです。例えば、主に2回生が受講する「作物学」では、講義毎に確認小テストを実施していますが、オンラインであることを利用して満点が取れるまで何回でも受験できるようにしています。この方法を採用したことで、以前よりも知識の定着率が良くなったように感じています。

一方、実験・実習・演習といったオンラインでは実施が難しい科目や一部の必修科目では、徹底した感染防止対策を施した上で対面式授業を行っています。特に卒業研究については、様々な制約がある中でも例年同様に質の高い研究・教育ができるよう、教員一同が知恵を絞っているところです。また、こうした対面式の授業を機会として、学生間の交流も盛んになってきたようです。



松江キャンパス内水田での田植え

環境共生科学科

環境共生科学科でも多くの講義がオンラインで行われています。オンライン講義に戸惑っている学生もいますが、学科全体で修学を支援しています。一方、1年生の共通科目や、実験、実習、演習科目は、新型コロナウイルス感染に十分な対策を取りつつ、対面授業で行っております。また、学生の体調や健康にも気を配り、保健管理センターの専門家も交えて学生生活全体をサポートしています。

1年生は英語などの教育科目や環境共生科学基礎セミナーなどを履修し、大学生活を始めました。2年生はコースに分属し、専門的な内容を扱う講義や実験科目を履修しています。3年時の研究室分属に向けて知識や技術を習得しています。3年生は研究室に所属し、卒論研究の準備を開始しています。これまで学んだ知識や技術を用いて新しい知見の発見に取り組みます。4年生は卒業研究に取り組み、卒業後の進路についても考えています。新型コロナウイルス感染拡大により社会が大きく変化していますが、社会で活躍できる人材になるため大学での学業に取り組んでほしいです。



三瓶演習林で昆虫採取実習に取り組む新入生

大学院への進学を薦めています

自然科学研究科(博士前期課程)では確かな専門知識や技術、超スマート社会で主体的な役割を担うための情報技術力、外国語によるコミュニケーション力とグローバルな感性、そして柔軟な発想力を養います。それにより、科学・技術の発展と持続可能な社会の実現に俯瞰的・総合的視点から寄与できる創造性豊かな高度技術者・研究者及びグローバルな視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材を養成します。

～大学院で学びを深めませんか～

入試情報はこちら→

